

# 大館の歴史散歩

古記録・紀行文  
を歩く ②

## 『時衆過去帳』にみる

### 中世の大館地方

(下)

鎌倉時代の新興仏教の一つである時衆は、全国各地で広く迎え入れられた。大館地方でも計五十七名もの結縁衆がみられるほどで、時衆が浸透していたことを知ることができる。また、十五世紀初頭において、現代につながる集落名(『時衆過去帳』に記された在所名は集落名と考えてよいだろう)を確認できることは大館地方の中世史にとって重要である。

当時の大館地方の様子を知ることのできる資料は、十四世紀前葉の『南部文書』(「北畠顕家国宣」・「津軽降人交名注進状」・「曾我太郎貞光謹目安言上」)や、文和三年(一二三四)の『沙弥浄光讓状』、嘉吉元年(一四四一)の『米良文書』・「那智山願文」など数例で、これらからは政治社会的な動きはわかるが、具体的な大館地方の姿を把握することは困難である。

いたことを知ることができ、『沙弥浄光讓状』にみえる「さうあみたふ」「さようあみたふ」「とくあみたふ」の阿号から導かれる時衆波及を裏付け、『米良文書』にみられる「浅利の徳子の源遠江入道但阿弥」が、『時衆過去帳』の応永二十五年(一四一八)の「土古 但阿弥陀仏」と非常に近い(同一人物ではないと考えられる)関係、強いて言うなら土古の但阿弥陀仏が親で、徳子の但阿弥が子ではないか、ということなどを語りかけてくれる。

たのかは、時衆が地域史に及ぼした研究が進められている現在の全国的研究レベルと同様に、今後の課題であるといわなければならない。

大館地方の時衆研究では、時衆名号板碑、石造遺物が皆無であること、浄土信仰の普及状態が不明であること、その遺物や伝承などもまったく不明であることなど課題は多いし、中世信仰の実態はまったくわかっていないのが実情である。そのようなことから、『時衆過去帳』は大館地方の信仰を探る重要な手掛かりであり、『沙弥浄光讓状』とともに中世大館地方の姿を具体的に知り得る貴重な資料であるといえる。

市役所史跡探訪会



## 私の本棚

中央図書館新着図書

### 『ことばは生きもの』

鶴田 洋子 著 誠文堂新光社

最近の日本人のことばの使い方が乱れているのか、それともことばは時代と共に変化していくものなのか。「気になることば」・「新語製造法」・「いることば、いらないことば」等、日常何気なく使っている『ことば』の諸相について語るエッセイ。



#### 一般書

- ◇未踏峰[上・下] (森村誠一) ◇森と水のサイエンス (中野秀章[他])
- ◇ぼくが医者をやめた理由[つづき] (永井明)
- ◇痛快ワンマン町づくり (早瀬圭一) ◇北の海明け (佐江衆一) ◇結婚しても仕事を続ける娘への手紙 (南和子) ほか

#### 児童書

- ◇わたしたちのクラブ活動[全12巻] (ポプラ社) ◇地図がたのしくわかる本[全5巻] (ポプラ社) ほか

6月のテーマ関連図書コーナー・『旬』  
親子読み聞かせ会  
毎週金曜日 午後2時30分から  
中央図書館の休館日  
6月18日、22日、7月16日

## 消費者の窓

つぼ、印鑑、買っても運は開けません!

最近、靈感商法・開運商法といった、人の悩みや不安につけこんだ悪質セールスによる被害が多発しています。「あなたの名前は不幸を背負っている。今使っている印鑑を変えないと……」「家族を襲う不幸を防ぐには、このつぼを置いておくほかない。そうでなければ……」など、悪霊や因縁をはらうためと言葉巧みに消費者に近づいて、あの手この手で商品を法外な値段で売りつけるというの

がこの商法。お年寄りや日中一人である家庭の主婦などを狙って、悪質なセールスマンが横行しています。必要のないものはキツパリと断りましょう。あいまいな返事は禁物です!

### こんなことに気をつけて

- 1、世の中そんなにうまく話はない。いらないものはキツパリ断る!
- 2、本当に今必要? 支払いは大丈夫? よく考えて!
- 3、うかつにサインしたり押印したりしない!
- 4、契約書はじっくり読んで、※トラブル等でお困りの方は、市民生活課(内線214)へご相談ください。